

子育て中の母親の QOL の向上 —T 市エアロビックスサークル参加者の調査—

○松永須美子（南九州短期大学） 松永智（宮崎大学）

キーワード： 子育て エアロビックス

これまでの我々の調査において、子育て中の母親の大多数（88%）は「運動したいができない」状況であり、理由は「時間がない」「子供がいるから」というものであった。子育て中の母親も運動に参加できる環境づくり、動機づけが必要と考えられる。そこで本研究では、実際に子育て中の母親が活動しているエアロビックスサークル参加者 70 名にアンケート調査を実施し、動機づけとなった条件を検討した。結果、入会の動機には参加費用や開催場所（近隣）も重要であった。このサークルは子供の託児はなく、母親の傍に子供を同行させてエアロビックスを行っているが「託児ならば入会していない」「わからない」者が 76% を占め、託児を敬遠する傾向が明らかとなった。また、心身の変化についても調査した結果、以前（入会前）と比較して現在（運動実施）は「体力」「熟睡感」で向上がみられ、精神面では「生活に張りがある」「前向きに生きている」者が多くなり、「ストレスを感じる」「子育ては疲れる」者が減少した。運動が精神的安定と日常生活への積極性をもたらしたものと示唆された。本研究では「運動」に限定したが、子育て中の母親が「余暇を楽しむ時間」を持つことが心身の健康に重要な役割を果たすものと考えられる。

地域の伝統的レクリエーション「神楽」の継承実態に関する基礎研究

迫俊道（大阪商業大学）

少子高齢化、また近年に行われた平成の大合併等の影響もあり、伝統芸能を継承している組織の多くは存続のための活動に苦慮しているのではないかと思われる。そのような状況にあって、中国地方、特に広島県ではある特定の神楽が盛んに行われている。民俗芸能学者である三村泰臣は「神楽団」と呼ばれる組織（神楽上演のために結成されている集団）は広島県内だけでも少なくとも 200 団体を超えると報告している。そして、広島県の神楽を、「芸北神楽」「安芸十二神祇」（以下、十二神祇神楽と表示）「芸予諸島の神楽」「比婆荒神神楽」「備後神楽」の 5 つに分類している。この中の「十二神祇神楽」は、三村によって広島県独自の神楽として高く評価されているが、今日ではこの神楽の継承状態は決して安定的なものとはいえず、存続が危ぶまれているところが多いと思われる。

広島市では 2006 年に広島市神楽振興連絡協議会が組織された。その際に整理された資料によれば、広島市内の 8 区の中で、神楽団を有する地区は、東区（1 団体）、西区（2 団体）、安佐南区（8 団体）、安佐北区（13 団体）、佐伯区（10 団体）で、合計 34 団体が存在していることがわかった。本研究の目的は 2007 年に広島市神楽振興連絡協議会によって、同会へ参画した 31 の神楽団に対して実施された「アンケート調査」の結果を分析することによって、神楽を継承している実態、神楽を継承していく上での課題を明らかにすることにある。アンケートの詳細な結果については学会発表当日に報告することとする。